公立学校耐震状況（令和7年4月1日現在）

学校名	対象施設名	建築年	構造	階数	面積（㎡）	耐震診断実施状況	耐震診断結果等(Is値)	備　　考
横芝小学校	校舎(仮設校舎)	R5.2	S	2	3,952	—	—	賃貸借契約（新校舎建築中）
	体育館	S50	R	2	1,194	平成15年度	0.095	平成18年度　補強改修済み(Is値 1.138)
上堺小学校	校舎(中央)	S47	R	2	1,136	平成16年度	0.600	平成18年度　補強改修済み(Is値 0.700)
	校舎(東側)	S51	R	2	578	平成16年度	0.770	耐震性あり
	校舎(西側)	S56	R	2	432	平成16年度	0.930	耐震性あり
	体育館	S56	R	1	875	平成16年度	0.910	平成21年度　補強改修済み(Is値 0.910)
日吉小学校	校舎	S58	R	3	2,193	新耐震基準	ー	
	体育館	H26	R	2	950	新耐震基準	ー	改築（平成26年度完了）
光小学校	校舎	S55	R	3	3,486	平成16年度	0.730	耐震性あり
	体育館	H23	R	2	1,242	新耐震基準	ー	改築（平成23年度完了）
白浜小学校	校舎(特別教室)	H24	R	1	289	新耐震基準	ー	改築（平成24年度完了）
	校舎	S57	R	3	2,561	新耐震基準	ー	
	体育館	H24	R	1	1,084	新耐震基準	ー	改築（平成24年度完了）
横芝中学校	校舎	H19～H20	R	3	3,640	新耐震基準	ー	改築(平成20年度完了)
	校舎(特別教室)	H19～H20	R	3	3,246	新耐震基準	ー	
	講堂	H19～H20	R	2	3,575	新耐震基準	ー	
光中学校	校舎	H14	R	3	6,255	新耐震基準	ー	
	講堂	H14	R	1	1,700	新耐震基準	ー	

凡例　補強改修済み　新耐震基準　耐震性あり

耐震診断とは　旧耐震基準で設計された既存の建物を、現行の構造基準（新耐震基準）でどの程度の耐震性を有しているか確認することです。

Is値とは

建物の耐震性能を表す指標で、国土交通省では安全の目安としてIs値を0.6以上としています。
文部科学省では、公立学校施設の耐震改修の補助要件として、地震時の児童生徒の安全性、被災直後の避難場所としての機能性を考慮し、補強後のIs値がおおむね0.7を超えることとしています。

Is値	耐震性能
0.3未満	大規模な地震に対し、建物の倒壊又は崩壊の危険性が高い。
0.3以上～0.6未満	大規模な地震に対し、建物の倒壊又は崩壊の危険性がある。
0.6以上	大規模な地震に対し、建物の倒壊又は崩壊の危険性が低い。

新耐震基準とは

昭和43年に起きた十勝沖地震や昭和53年に起きた宮城県沖地震を契機に、それまでの中規模地震を想定した建物の耐震基準から、新たに中規模地震では建物にほぼ損傷がないよう、また稀に起きる大規模地震でも大きな損壊を防ぎ、人命に影響を及ぼさないよう、昭和56年6月から建物に求められる耐震基準が改められました。

耐震性能の目標

現行の建築基準法施行令では、次のような耐震性能が想定されています。

中地震時	震度5強程度	建物に損傷が発生しないようにする。
大地震時	震度6強～7程度	建物に部分的な損傷は生じるものの、倒壊などの大きな損傷を防ぎ、人命が失われないようにする。